ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	NO.1-3(左岸)	調査位置						北　緯	36 ° 32 ' 32.0000 "
発注機関	栃木県鹿沼土木事務所			調査期間	2007-12-26 ～ 2008-03-21			東　経	139 ° 41 ' 32.0000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	164.38 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 50.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	6.44 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日
1	162.98	1.40	1.40		礫混り粘性土 (C-G)	茶褐灰		中位	礫混じり粘土主体となる。 下部へ行くに、植物根混じる。 粘着は中位。 礫径2から25mmの角礫所々混じる崖錐である。		02/05 2.14
2	161.08	1.90	3.30		風化頁岩 (Sh)	暗褐灰	密な		コアは粘土混じり礫状主体 1.40から1.60mの間、強風化状の頁岩で、状態は粘土混じり砂礫主体。 1.60mより所々岩片、礫状主体で所々風化の為粘土化する。 全体に無数の亀裂多く入り、岩片状コア主体となる。		
3	157.94	3.14	6.44		頁岩 (Sh)	暗褐灰	非常に密な		やや風化した頁岩、粘板岩主体となる。 岩質はやや硬い。 柱状コアであるが、無数に亀裂多くはいる。 3.55から3.65mの間、やや状態が悪く一部岩片礫状となり、亀裂部若干の粘土化となる。 5.90から6.30m間、風化すすみ軟質。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0-10	10-20	20-30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1 / 14	1	2 / 13	4 / 37	3
1.52					
2.15	7	5	7	19 / 30	19
2.45					
3.15	13	16	21 / 5	50 / 25	>50
3.40					
4.00	50			50 / 10	>50
4.10					
5.00	50 / 5			50 / 5	>50
5.05					
6.15	10	12	28 / 9	50 / 29	>50
6.44					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
				02/04
				02/05